



隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小」

隈府小学校
学校だより No22
文責 芹川博文
10月10日(金)

前期を振り返り 後期を思い描く ～ 自ら考え なかまと高め合う 隈府小をめざして ～



保護者の皆様のご支援のもと、隈府小学校の前期が終了します。今日の終業式では、写真を見ながら児童と職員ともに前期を振り返りました。上の写真は、車にお礼を言っている児童の写真(左)、6年生の朝のボランティアの写真(中央)、そして授業前の黙想の写真(右)です。今年度、隈府小では「あいさつ・そうじ・時間」を重点項目に掲げて取り組んできました。



また、「聞くこと」も大切になってきました(左の写真)。後期は、「自分の言葉で伝える」ことも更に意識してほしいと思います。「本物に触れ、学ぶ授業」にも力を入れています。熊本動物園で起きた戦争時代の話に耳を傾けたり(中央の写真)、循環型社会を目指す環境教育について学んだり(右の写真)しました。環境と人権について更に学びを深めてほしいと願います。

地域行事に参加し 地域に学ぶ

～ 白龍まつり、相撲、千本槍、能(狂言)など目白押し ～

隈府小の秋休みは、地域学びの機会が目白押しです。今週は、相撲の練習や千本槍の練習で盛り上がりました。

相撲の練習は、正直、怪我はしないかとヒヤヒヤしました。

私が子どものころは、遊びの中で相撲をしたり、「三回回り」

(正式名称「ひまわり?」)と言って、がっぴり組んで押し合ったりする遊びが日常的にありました。しかし、最近は(特にコロナ以降は)、相撲等の接触した遊びは少ないのではと思います。

しかし、だからこそ貴重な機会です。参加数は1～6年まで、なんと27人。盛り上がることでしょう。今年も梅田様親子にご指導にいただきました。

また、千本槍行列にも10名もの青年団の方に来ていただき、ご指導いただきました。こちらは5、6年生、73名の参加。当日の武者姿が「武者んよか」ことでしょうか。白龍まつりの参加も多いと伺っています。他にも能(狂言)を披露する児童もいるとのこと。隈府の子どもたちが、地域の祭りや行事に参加し体験することは、必ず大人になって記憶として残ることでしょう。地域を支える人材となるにしても、地域を離れて懐かしく思い出すにしても、貴重な体験となります。この秋休みは、地域の一員として、地域の良さを味わってほしいと思います。

保護者の皆様、前期の隈府小学校へのご支援、誠にありがとうございました。

